

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	64	実施計画番号	124	
事務事業名	駐車場運営事業		事業開始年度	平成17年度
担当課名	商工労政課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	中心市街地活性化基本計画	関連事務事業		
背景や経緯等	顧客が徒歩から自転車、自転車から自動車へと交通手段が変化していく中で、商業者は広い範囲で競争する時代へと変化した。自転車の時代までは商店街の時代といえたが、車社会となって構造的に対応できない商店街は客離れとなっていることから、駐車環境を整備することで、商店街の魅力アップにより中心市街地の活性化を図る。			
事務事業の目的	駐車場不足の解消を図ることで商店街への集客力を高める。			
実施状況	中心商店街は駐車環境が周辺の商業集積地に比べ劣位にあることから、駐車場を整備することで、車社会に対応した来街者の利便性向上を図るため、南商店街区駐車場、七・八丁目商店街区への無料駐車場開設に補助した。			

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	20	20	20
	人件費(千円)	720	720	720
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	480	480	480
うち一般財源	240	240	240
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他	240	240	240

【指標】

活動指標	活動指標名①		補助金額			
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
			千円	240	240	240
	活動指標名②					
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
成果指標	成果指標名①		利用率			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
		%	目標値	10	10	10
			実績値	6	6	
			達成度(%)	60%	60%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
			目標値			
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	64
計画No	124

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 中心商店街の活性化と振興の一貫として行われており、顧客へのサービス向上を目指す商店街の活性化対策として、妥当である。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 無料駐車場の利用率の向上を図る必要がある。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 中心商店街の活性化、賑わい創出のため継続して取り組む必要がある。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 誰にでも利用でき、受益に偏りはないと考える。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					19 / 20	改善の余地	1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由
商店街の活性化と商業振興を図るため、今後とも継続した支援を実施する必要がある。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
無料駐車場を開設していることをより多くの市民に周知し、サービスを高めることが必要である。